

そ 爽 風 う

神戸市シルバーカレッジ情報誌
2026年9月号 第232号

特集

ボランティア活動報告会



「二条城」 絵画 VG 美工 32 期 畠田 潤子



「チェコの小巷」 絵画 VG 美工 32 期 畠田 穰治

2	ボランティア活動報告会
7	学園祭開催に向けて
10	教室だより（31 期生 全コース・専攻）
12	しあわせの村で働く人々 「いくせい」さん
14	KSC OB のボランティア活動 「みんなの食堂」・ 文芸サロン
16	グループわ だより ・ 図書室だより ・ 編集後記

神戸市シルバーカレッジ情報誌「爽風」は、カレッジ内の行事・教室だより・サークル活動・トピックスなどを取り上げながら、学生だけの編集により発行しています。「爽風」への情報・ご意見は、次のホームページからお寄せください。
<https://ksc-sofu.net/> スマホでは右の QR コードからご利用できます。



編集・発行 神戸市シルバーカレッジ 情報誌編集委員会

ボランティア活動成果の共有と新たな一歩

はじめのこたば

ボランティアセンター代表 坂口 尚志



ボランティア活動報告会は今回で29回目になりますが、この活動は1995年の阪神淡路大震災を契機として始まりました。当時シルバーカレッジは創立まもない時期でしたが、この校舎が救援物資の集積所として使われ多くの方々の支えとなりました。

そして多くの学生が自主的に救援活動に参加し、その経験がボランティアセンター設立の礎となりました。あの震災をきっかけに地域との結びつきと支え合いの精神が強く根付いたのです。

本日はご多忙中、神戸市各区の社会福祉協議会から4名のご来賓としてご臨席いただいております。

- ・須磨区ボランティアセンター所長 松本様
- ・北区ボランティアセンター所長 木村様、コーディネーター 志方様
- ・垂水区ボランティアセンター 飯塚様

またシルバーカレッジからは、黒田常務理事様にご臨席いただいております。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

さて、本日の報告会は、これまで続けてきたボランティア活動の成果を共有する場であり、過去を振り返りながら未来に向けて新たな一歩を踏み出す機会でもあります。本ホールではグループごとの活動紹介やパフォーマンスが行われます。ふれあいホールや教室では、手作り作品の販売や展示、体験コーナーが開かれていますので、ぜひ楽しんでいただきたいと思います。

また、阪神淡路大震災から得られた教訓を未来に繋げるため、募金活動を通じて災害支援を行っています。これにより、被災地の復旧支援や防災活動をさらに強化することができます。会場入り口近くに募金箱を設置しておりますので、ぜひ皆さまのご協力をお願いいたします。

今日の報告会が、地域とのつながりやボランティア活動への新たな意欲を高める機会となることを願っています。最後までごゆっくりお楽しみください。



常務理事あいさつ

こうべ市民福祉振興協会常務理事 黒田 徹



KSCボランティアセンター主催の29回ボランティア活動報告会が今年入学された33期生の皆さまをはじめ、多くの皆さまのご参加で開催されますことを、お慶び申し上げます。

また、本日の報告会の開催にご尽力をいただいたKSCボランティアセンター坂口代表をはじめ、関係者の皆さま方に感謝申し上げます。

KSCボランティアセンターは、神戸市シルバーカレッジの建学の精神である「再び学んで他のために」を実践するものとして、開学2年目に発生した阪神・淡路大震災の際に、しあわせの村が災害復旧・復興拠点となったことから、当時、学生の皆さんも自身が被災した状況にもかかわらず、立ち上げられた活動が原点であるとお聞かしています。

その活動は、震災後約30年を経過した現在の神戸シルバーカレッジの学生の皆さまにも受け継がれ、さまざまなボランティア活動を実践していただいております。こうした取り組みは他の同様の生涯学習機関ではあまり例を見ない、神戸市シルバーカレッジの特徴的なものとなっています。

この報告会を契機として、新しいメンバーが各ボランティアグループに参加され、またボランティアグループ相互間の連携がさらに深まり、KSCボランティアセンターの活動が今後ますます発展されますことご祈念申し上げまして、私のあいさつとさせていただきます。

熊本地震のお見舞い

令和8年7月に発生しました熊本地震で被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

ボランティアセンターでは、入学式、ボランティア活動報告会でいただいた募金は、被災地を含めて様々な支援先に届きますようにとの趣旨で、支援先を固定せずに日本赤十字社に送金しています。

なお、募金は学内の主なイベントの際に受け付けておりますので、今後ともこの活動にご協力・ご支援をお願いします。

シルバーカレッジボランティアセンター

23のボランティアグループの活動発表

KSC国際交流友の会

例年通り、各国の物品を集め、ふれあいホールにて販売を行いました。今回は小物と共に高価で希少価値があるもの



のも出品され、完売することができました。今年の売り上げは、これらの寄与も大きく、例年になく大きなものとなりました。

KSCスポーツ吹矢グループ

社会福祉協議会のボランティア交流会や「グループわ」主催のイベントに参加しています。また老人ホームなどからの依頼を受け、スポーツ吹



矢体験会を何度か実施しています。今後もボランティア活動をみんなと一緒に楽しみながら積極的に進めていきます。

「ガーデニング」グループ

「ガーデニング」グループは例年同様シルバーカレッジ玄関前で花苗の展示販売を実施しました。花苗はメンバーおよび



OBが報告会にあわせて各自で種まき、育苗を行い持ち寄ったものです。当日は開始直後から多数の来客に恵まれ好評でした。今後も継続する所存です。

KSCボランティアグループ茶道部

毎月3回、高齢者施設で入居者やデイサービスを利用されている皆さまに薄茶を楽しんでいただいています。また、国際交流友の会と協力して留



学生にお点前を披露し、茶の湯文化を紹介しています。今年は神戸市社会福祉協議会から長年のボランティア活動に対して表彰されます。

ボランティアクッキーの会

ボランティアクッキーの会は、ふれあいホールにて事前に手作りしたクッキーとパルミエを販売しました。パネル展示は、日頃の調理室でクッキーやパルミエを焼いている様子や友愛訪問先からのお礼状をご紹介させていただきました。

当日は、お陰様で13時頃には完売しました。利益はボランティア活動の大切な原資とさせていただきます。これからもクッキーの会は活動し継続していきます。



ボランティア・グループ「こども文化」

ボランティアグループ「こども文化」は、私達の子どもの頃の遊びを今の子ども達に伝えており保育園、児童館、小学校などが主な活動場所です。



今回の報告会では、わくわく広場inあいの里山公園での活動を発表しました。活動では、けん玉、コマ回し、折紙、ブンブンゴマなどで遊んでもらっています。子ども達から笑顔と元気をもらえる楽しい活動です。

KSC英語点字グループ

KSC英語点字グループはKSCの建学精神「再び学んで、他のために」に沿って1999年4月に発足しました。以来、第2公用語が英語の東南アジア諸国のNPO団体、図書館などに、年間50巻前後の点訳本を寄贈してきております。英語点字は決して難しくは



ありません。ワードで普通にローマ字入力ができるば、簡単に点訳・校正ができます。

朗読あかりの会

私たち朗読あかりの会では昨年度、障害者福祉施設を中心に、紙芝居や絵本の読み聞かせを年間12回開催したことを報告させていただきました。また33期生10名入部で部



員が増えてうれしい限りです。にこやかで、レベルの高い指導を受けてクラブ活動を楽しんでおります。

KSC人形劇「ゆめ」

今回の演目「大きなかぶ」は、小さな子供達を対象とした参加型の人形劇です。大きなかぶをお爺さん、お婆さんと観客の子供達が「うんとこしょ、どっこいしょ」と力を合わせて引き抜きます。参加する子供たち、観ている子供たち、みんなが笑顔になります。報告会でもその雰囲気伝わって皆さんに喜んでもらえました。



混声合唱団コーロKSC

私たちのボランティア活動は、主に老人施設への訪問です。昨年7月と今年1月には「ケアハウスまんてん垂水」、9月と12月に「メープルホーム」に伺いました。いつも懐かしい曲を歌って大変喜ばれています。また、利用者の方々と一緒に歌ったり、ハッピーバースディを歌って誕生日のお祝いをしています。



KSC民謡同好会

昨年度3か所の高齢者施設を訪問いたしました。どの施設でも民謡の唄と踊りを楽しんでもいただきました。施設利用者の方からのお褒めのお言葉もいただきました。



このような内容をボランティア報告会で報告し、KSC民謡同好会がどのような活動をしているかがわかるようにしました。

KSCフォークダンスグループ

KSCフォークダンスグループは、約40名のメンバーで毎週金曜日の午前中にしあわせの村のたんぼぼの家で練習しています。フォークダンスは、学生時代誰もが一度は踊ったことがあると思います。年齢を重ねても楽しめますので一緒に可



愛い衣装で楽しく踊り若返りませんか。ボランティア活動として、市内の施設から依頼を受けて訪問演奏を積極的に活動しています。

KSCマジック同好会

毎年15か所ほどの老人ホームおよび地域自治会でマジックショーを開催しております。開催の都度、皆さんから大好評を得ています。



「小さな驚きを大きな感動と笑顔に！」をモットーに活動しています。

KSCアロハハワイアンズ

KSCアロハハワイアンズは、日ごろは神戸まつりやきたきた祭りなどの市区主催のイベントに参加するほか、市内各区の



高齢者施設にボランティア訪問を多数行っています。今回の報告会は15分という短い時間ですが、日頃の練習の成果を発揮できたかと思っています。

銭太鼓楽遊グループ

派手で威勢がいい銭太鼓が復活です！1年に50回のボランティアをする先輩たちに助けられて、私たち現役生も報告会で演技を披露することができました。ボランティア先でも大人気。銭太鼓を叩いて鳴らして一緒に練習しませんか？元気が出ますよ。



手話ソング

手話ソングでは歌を歌いながら歌詞を手話でも表現します。昨年度は高齢者の給食会や「国際交流友の会」での留学生交流イベントに参加しました。手話を一緒にやっていただき手話や手話ソングを知ってもらおう機会にしています。



今年度もレパトリーを広げて、行った先々で喜んでいただける活動を目指して行きます。

KSC男性合唱団

KSC男声合唱団は、近隣の高齢者施設への訪問演奏と定期演奏会を柱に活動しています。ボランティア活動報告会では日頃の練習の成果を少しでも披露できたのではないかと思います。来年秋には定期演奏会も控えており、いっ



そう練習に励みたいと思っています。

KSCイベントぴかぴか隊

神戸で開催される神戸まつり、神戸マラソン、阪神淡路大震災1.17のつどいやルミナリエなどのイベントの会場整備や会場案内、迷子対応や清掃などのボランティア活動に参加し、愛する神戸を盛りあげようと活動しています。OBととも



に活動し毎回150人規模のボランティア活動を行っています。OBは「神戸ぴかぴか隊」として組織化されています。

ボランティア木工グループ

OBの皆さんを交えた作品製作の苦労話に花が咲き、会場には笑顔と笑い声があふれました。作品作りへの思いや工夫を共有しながら、改めて仲間との繋がりを感じる一時となりました。グループでは、例年通り夏休みのボランティア活動を計画するとともに、秋の学園祭に向けた作品製作を進めて



います。一つひとつ心を込めて仕上げ、来場される皆さまに木の温もりをお届けしたいと考えています。

陶芸ボランティアグループ

今回のテーマは、「そよ風ながた」でのボランティア活動状況、陶芸作品の展示、32期生合同で作陶した販売品および個人販売品と定め、企画して展示しました。当日の多くの来客数もあり作陶者として色々な方々からの質問を受け楽



しそうに答える姿は美しく感じました。また販売品売上は予想を上回り購入者の方々に感謝申し上げます。

絵画ボランティアグループ

絵画ボランティアグループでは、日頃の制作活動の成果を作品で展示しました。A4サイズ絵、絵ハガキ、しおりなど描く紙面が違い、また水彩画（不透明・透明）油彩（油絵・アクリル）色鉛筆などを用いて、各自が好きな対象物を選び描きました。静物画、風景画、人物画と多くのジャンルの作品が揃いました。これらの作品の販売も好評だったようです。



また高齢者施設で絵の制作補助にあたっており、了解を得たうえで作品を匿名展示しました。

ケナフの会

ケナフの会では、ケナフやローゼルを種まきから収穫まで育て、花の染色、紙すき、炭づくり、ハイビスカスティーやジャムづくりなどに活用しています。また、地域で体験教室を開催し、環境学習にも取り組んでいます。さらに、CO₂を多く吸収す



る植物として、温暖化防止や自然環境保全に関する情報発信にも努めています。

グループわ

パワーポイントやパネルで、グループわの構成と、本部が主催してきた「夏休み工作塾」や「カブトムシ観察会」などの行事、そして、OBがクラブ活動で日頃の成果を披露したり地

NPO法人 社会還元センター グループわ
(シルバー・カレッジのOBを中心としたボランティア団体)

会員：KSC1～30期生を中心に992名(令和8年度)

9 区会	本部	5 部会
東灘、灘、中央、兵庫、北、長田、須磨、垂水、西	運営業務 学習支援・学校園 パソコン教室 各種イベントの実施	福祉・国際・環境 ・文化・いきがい グループ数：41

内容 施設慰安訪問(音楽・舞踊ほか)、国際交流、環境保全・啓発、文化、いきがいづくりなど幅広く活動

対象 高齢者、障がい者、幼児・児童など

わ だから任せられるという高い評価を得ています

域活動を企画・参加したりしている様子を紹介しました。現在でも「わ」に参加できますので、一緒に活動しましょう。

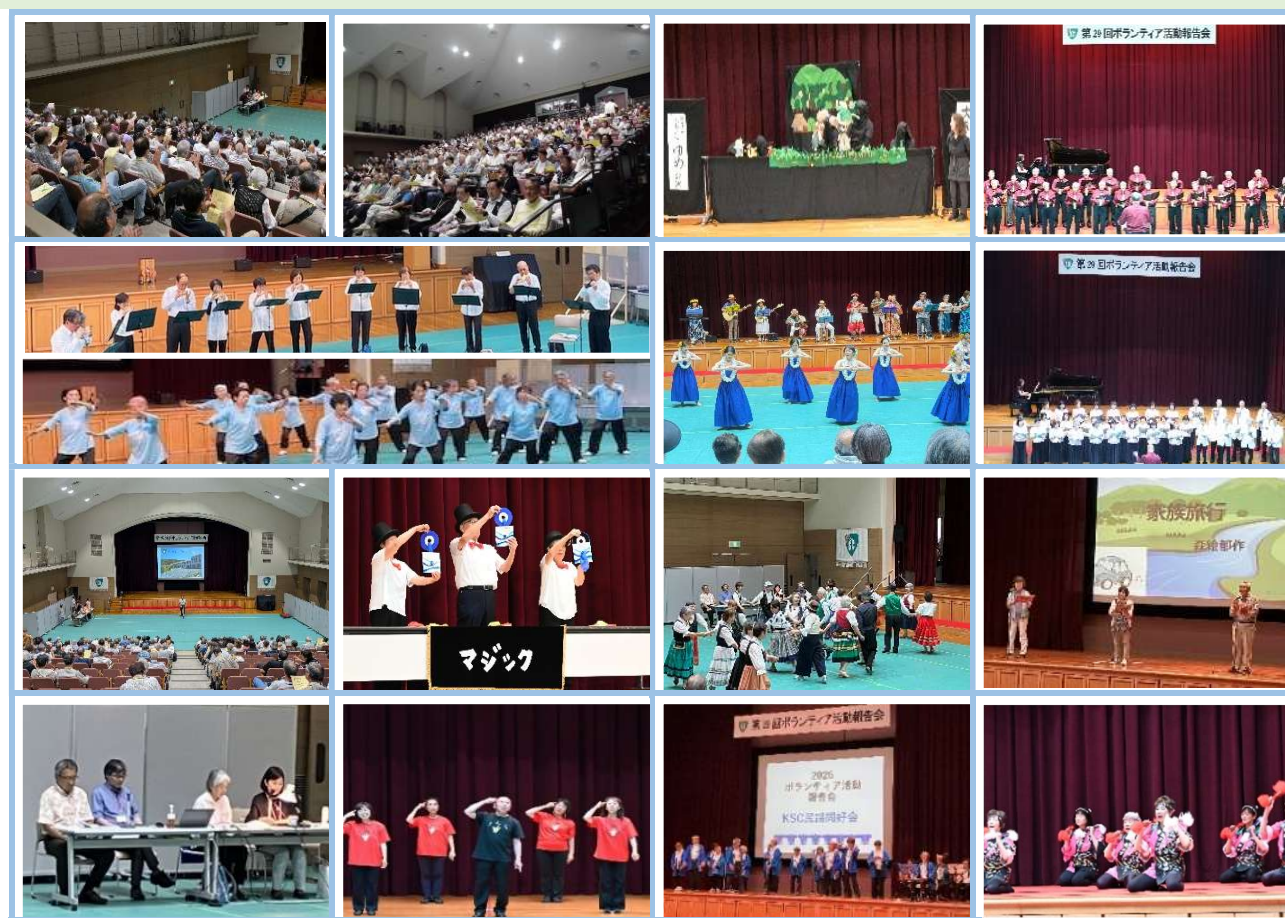
願い事がこもった七夕飾りをかざりました

ボランティア・グループ「こども文化」

吹き流しやかわいい金魚、そして短冊に願い事を書いてもらい、6月29日に七夕の笹飾りを完成させふれあいホールに設置しました。笹の切り出し作業から始まり、「こども文化」の会員とOBの組織の「むかしあそび研究会」の皆さんが協力して進め、家族の健康安全の願いがこもった七夕の笹飾りがかざられました。



カレッジホール



ふれあいホール



～学園祭開催に向けて～ 自らの手で、自立した学園祭を！

昨年度から学園祭は学生自治会として運営されるようになりました。学園祭はできるのかできないのか、学生一人一人に問いかける学園祭です。今年も学園祭はなくてはならない、と心ある有志が集まり、総務委員会、駐車場委員会を立ち上げ、今年も学園祭は開催できることになりました。その後、ステージ委員会と出店・展示委員会も立ち上がりました。



仲間と共に「学園祭を途切れさせない」

総務委員会代表 永井 謙一

シルバーカレッジの学園祭は、学生が主体となって運営するシルバー7カレッジ最大のイベントです。総務、駐車場、出店・展示、ステージの4つの委員会が、充実した学園祭の開催に向けて準備を進めています。

私自身、出演者や支援者として関わった経験はありましたが、委員会の代表を務めることになるとは思ってもいませんでした。初めてのことばかりで手探りのスタートでしたが、「歴史ある学園祭を途切れさせてはいけない」という思いを持つ仲間が集まり、毎週のようにミーティングを重ね、知恵を出し合いながら準備を進めてきました。

学生の皆さま、事務局の皆さまのお力添えをいただきながら、学園祭の成功に向けて尽力してまいります。是非、みんなで楽しい学園祭にしましょう！（音楽文化専攻32期）

手を挙げたスタッフ13人から始まった

総務委員会 高木 基實

今年2月16日に第1回学園祭運営スタッフ委員会が開かれました。そこに「学園祭をやりたい！」と手を挙げたメンバー13人(現在、12人)が集結し、学生自治会が組織され、10月10日(土)の第31回学園祭開催を決定しました。今年はスタッフの追加募集も行いましたが叶わず、スタッフ不足で「バザー委員会」が立ち上がらない縮小した学園祭になります。そのため、積立金を取り崩しますので、昨年に続き皆



さまに協力募金をお願いするとともに、今年は新たに「出店・展示・ステージ」に参加されるグループにも協力金をお願いすることにしました。

シルバーカレッジ学生が自らの手で自立した学園祭を創るべく新たな取り組みも企画します。皆さま、盛り上げてください。そして、楽しみましょう！（健康ライフコース32期）

昨年の1.5倍の支援者がやってきた、感謝！

駐車場委員会 安國 健

今年の駐車場委員は現在4人の体制（昨年の6人に比べ少なく、しかも3年生3人、2年生1人）で活動しております。本来なら1、2年生の皆さまの積極的な参加が望まれましたが、委員一同現状を受け止めて前向きに準備を進めております。駐車場支援者についてもできるだけ多くの方の支援を得るべく、昨年同様3年生を含めた全学年のコース・専攻の方を対象に募集し、幸いにも56人もの多くの方々の応

募をいただきました。これは昨年の31人に比べ1.5倍の人数に当たります。学生の皆さまのご協力に深く感謝いたします。

7月1日には第1回目の支援者説明会を開き、学園祭本番での円滑な駐車場運営に向けての各位の積極的参加と協力を確認いたしました。

（国際交流・協力コース32期）



ステキなステージと笑顔のために準備します！

ステージ委員会 細見 博子

ステージ委員会は学園祭に出演される方々の演技や演奏が安全かつ円滑に進行するために活動する委員会です。

私は昨年、臨時駐車場係として学園祭に関わりました。今年はシルバーカレッジ内で何か関わられるものと思い、音文クラスの委員としてステージ委員会に入りました。ステージで発表されるどなたにとってもステキで記憶に残るものになりたいと思っています。細かく意向を聴き、リハーサルを何度も行い準備を進めています。今年の出演数は昨年より1団体多い24団体。各団体から1人が委員になり、24人の委員と多くの支援者と共に、皆さんの笑顔のために準備しています。たくさんの方に観ていただけると嬉しいです。楽しみにしてください。（音楽文化専攻32期）



作品を見て、手に取って、魅力を感じて！

出店・展示委員会 山本 成人

出店・展示委員会では、学園祭において日頃の活動成果として、各クラブや同好会の作品展示や活動紹介を、ふれあいホールおよび2階の教室で行います。また、作品や植物などの即売会も開催されます。会場では、さまざまな作品を見たり実際に手に取ったりしながら、学園祭ならではの魅力を感じていただけたと思います。

私たち出店・展示委員会は、各クラブ、同好会の魅力や、パフォーマンスを最大限に引き出すため、出店・展示のレイアウトの作成や備品の在庫確認などを行い、設営班・備品班と協力しながら準備を進めています。

皆さまに楽しんでいただける学園祭となるよう努めていきますので、ぜひ会場へお越しください。（健康ライフコース32期）

出店展示サークル・クラスと内容一覧

※ 8 月 14 日現在の予定 変更の可能性あり

展示階	場所	サークル・クラス名	展示・出店	展示・出店内容
1 階	ふれあいホール	グループわ	展示	グループわの概要と活動紹介
		ボランティア木工グループ	出店	グループ活動における木工作品を展示販売
		ケナフの会	出店・展示	ケナフ系のスカーフ、手さげ袋の販売
		ボランティアクッキーの会	出店	クッキーの販売
		陶芸ボランティアグループ	出店・展示	陶芸作品の展示と販売
		ボランティア・グループ「こども文化」	出店	無料での遊びのコーナー。割箸鉄砲、折紙コーナーなど
		KSC英語点字グループ	出店・展示	英語点字に関するポスター展示とパソコンによる点字入力実演
		絵手紙クラブ	展示	絵手紙作品の展示
		KSC川柳くらぶ	展示	色紙を10枚程度点字
		俳句クラブ	展示	作品を展示
		KSC写真クラブ	展示	写真の展示
		ECO32期	出店	お米（ブランド米）の販売他
	エントランス回り	KSC有機野菜をつくる会	出店	さつま芋、ネギ類、腐葉土、ボカシ肥料等の販売
2 階		「ガーデニング」グループ	出店	花苗の展示および販売
	調理実習室	食文32期	出店	調理室でのカレーの販売
	学習室1・2	美術・工芸全学年	展示	美術・工芸3学年合同での作品展示
	学習室3・4	絵画ボランティアグループ	展示・出店	絵画作品（油彩・水彩等）の展示と販売
	学習室7	パソコンクラブ	展示	うちわ展示
	和室	KSCボランティアグループ茶道部	出店	2階和室でお茶席
	Gわ 会議スペース	グループわ	展示	夏休み工作塾の紹介パネルと作品展示

ステージプログラム

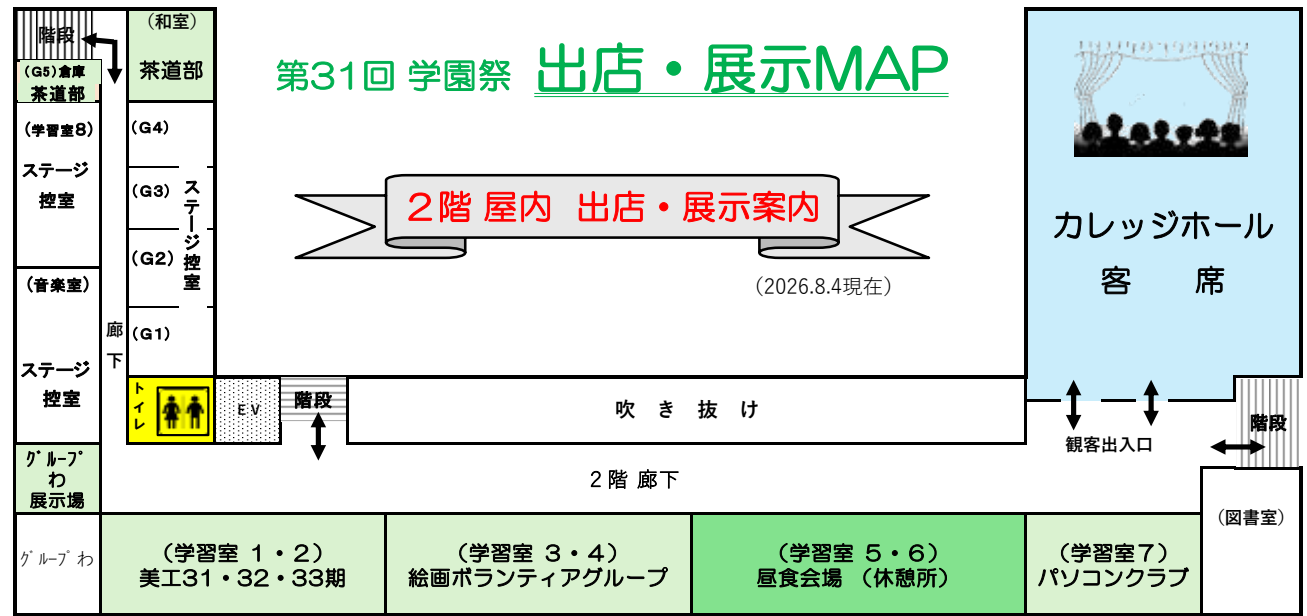
※ 8 月 14 日現在の予定 変更の可能性あり

	9：15～		開 会 宣 言	
時間帯	出演順	開始予定時間	サークル・クラス名	演 目
午前	1	9：20～	KSC三曲会	「月に寄せる日本の歌」「もののけ姫・いつでも何度でも・ルージュの伝言」
	2	9：33～	KSCオカリナチーム	「見上げてごらん夜の星を」「木星 愛の星」「昂」
	3	9：46～	KSC人形劇「ゆめ」	「ちからたろう」
	4	9：59～	KSC社交ダンスクラブ	ワルツ「グリーンスリーブス」ルンバ「Rayo De Soi」 タンゴ「I love you」ジルバ「ジ・エンターテイナー」
	5	10：12～	手話ソング	「手のひらを太陽に」「上を向いて歩こう」「世界に一つだけの花」
	6	10：25～	銀謡会	謡曲「高砂」
		10：38～	休 憩	
	7	10：48～	軽音楽クラブ	「ブラウド・メアリー」「スタンド・バイ・ミー」「ホテル・カリフォルニア」
	8	11：01～	混声合唱団コーロKSC	「いのちの歌」「ビリーブ」「紅葉」
	9	11：14～	KSC男声合唱団	「夏の思い出」「芭蕉布」「あの鐘を鳴らすのはあなた」
	10	11：27～	ザ・カスターネツ	「地上の星」「Moon River」「スペインのカスターネツ」
	11	11：40～	アンサンブルKSC	「旅人よ」「メロリー」「見上げてごらん夜の星を」
午後	12	11：53～	音文 3 学年合唱	2 年（ハーモニー32）「おおジャンゼリゼ」 1 年（おひさま33）「あのすばらしい愛をもう一度」 3 年（ボコアボコ31）「翼をください」「紅葉」
		12：06～	昼 休 み	
	13	12：55～	KSCフォークソング・クラブ	「岬めぐり」「ルージュの伝言」「想い出の渚」
	14	13：08～	KSCハーモニカ倶楽部	「ドレミの歌」「埴生の宿」「麦の唄」「宇宙戦艦ヤマト」
	15	13：21～	KSCフォークダンスグループ	「シリリキネレ」「パーリーシェルズ」「ヨランダ」
	16	13：34～	にここ胡愛好会	「歓喜の歌」「エーデルワイス」
	17	13：47～	KSC民謡同好会	「兵庫音頭」（兵庫県）「よさこい鳴子踊り」（高知県） 「九州炭坑節」（福岡県）
		14：00～	休 憩	
	18	14：10～	KSCアロハハワイアンズ	「ヘウイ」「マイエロージンジャーレイ」「ケアロハ」「銀座カンカン娘」
	19	14：23～	KSCフルートクラブ・フルーツパフェ	「威風堂々」「ララレー」「星に願いを」「You Raise Me Up」
	20	14：36～	銭太鼓楽遊グループ	「いい湯だな」「真っ赤な太陽」「河内おとこ節」
	21	14：49～	KSCマジック同好会	「びっくりハウス」「筒からシルク」「シルクセレナーデ」「新聞復活」「ドリームバック」
	22	15：02～	朗読あかりの会	朗読「くたばれPTA」より『カラス』『できない母親』より『コンビニの母』
	23	15：15～	KSCオールディーズクラブ	「ジャンバラヤ」「愛のセレブレーション」「ダイアナ」
	24	15：28～	KSC太極拳クラブ	「練功十八法」「簡化24式太極拳」
	15：41～		閉 会 宣 言	

第31回 学園祭 出店・展示MAP

2階 屋内 出店・展示案内

(2026.8.4現在)



2階

2階

WELCOME!

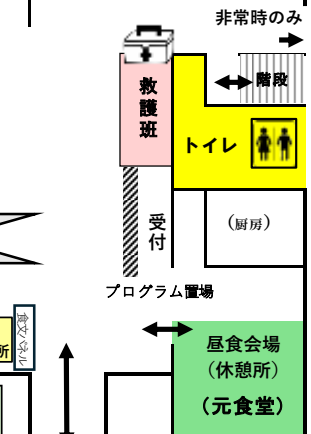
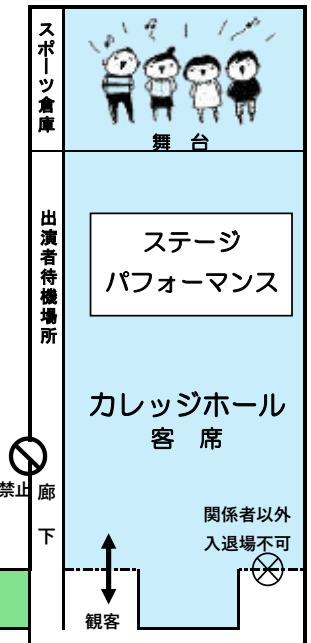
☆ 中庭での、出店・展示はありません。

☆ 受付 (2か所) にプログラムを置いています。

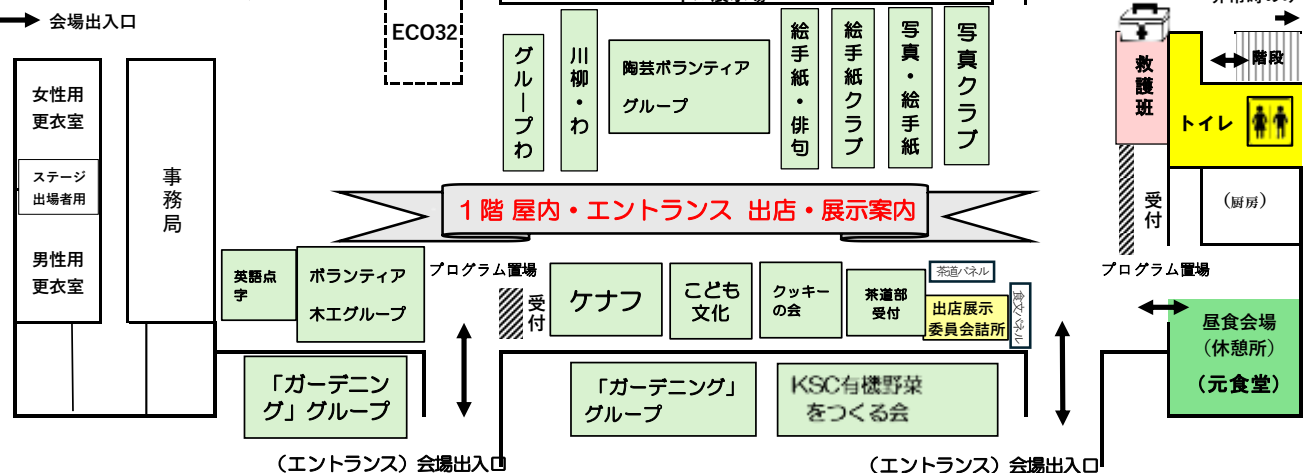
緊急時以外は、出入禁止

1階

学園祭関係者以外は入場できません!



1階 屋内・エントランス 出店・展示案内



<教室だより> 31期生3年間の集大成であるグループ学習についてクラス代表にお聞きました。

健康ライフコース

本橋 平和・野上 晶子

グループ学習のテーマ選びは、2年生までの健康ライフの講義を幾つかの 카테고リーに分け、触発された講義の中から具体的なテーマを考え、そのテーマに強い思いを持つメンバーがテーマに添ってプレゼンし、クラスのメンバー全員があらためて興味のあるテーマに集まるという形をとりました。その結果今年は8つのグループができました。同じ志の下に集まったメンバーなので楽しく活動しているのではないのでしょうか。

グループ学習は主にフィールドワークと文献による調査、学んだことの実践、パワーポイントによるまとめの作業などになると思います。



フィールドワークは神戸の近くだけでなく九州や島根、静岡などかなり遠方に出かけるグループもあります。その地ならではの体験も大事ですが、そこに至るまでの道中や宿泊も、グループ学習の枠を超えて交流を深め、代えがたい経験を共有することになるため、今後の人間関係がさらに深められるだろうと期待しています。

国際交流・協力コース

堀内 達也・服部 憲治

当コースでは1月中旬にテーマを募集し、全41件の応募がありました。新年度のテーマ説明会と活発な議論を経て、4月15日に5つのテーマとリーダーが決まり、その後ヒアリングを経て同月22日に以下の班構成が確定しました。

1班：ハワイを知りたい

2班：おいしい水

3班：神戸の映画と文化と国際交流

4班：もっと知りたいベトナム

5班：物流拠点としての神戸・横浜と比較しながら

同日夜には三宮でキックオフを行い、大いに盛り上がりました。

5月には指導教官も決まり、現在はシルバーカレッジでの学習や自主的なフィールドワークなど、各班で積極的に活動を展開しています。10月の中間発表、12月の発表会に向けて一丸となって邁進中です。



ECOライフコース

竹内 俊春・飛鷹 敏子

ECOライフコースのグループ学習は2年時のチームリサーチ活動を経て各自が取り組みたい課題を持ち寄り気の合うメンバーが集い、以下の7グループが結成されました。

自然環境（4グループ）

エネルギー（1グループ）

衣類のアップサイクル（1グループ）

水資源（1グループ）

各グループでは、自分たちの課題についてどんな方法で研究し、フィールドワークはどうするのかなどをグループ全員で検討し、実践しています。課題は、私たちの生活に影響を与える身近な問題になるようにしています。



後半の活動は、今まで調べたこと、経験したことをどうまとめて、どう伝えるかを話し合い、このグループ学習を有意義なものとし、カレッジライフ最高の思い出にできるよう進めていきます。そして、グループ学習での仲間と生涯エンジョイ！！

美術・工芸専攻

蔵本 健司・稲山 みどり

我々31期生の学生生活の集大成としてのグループ学習は陶芸です。

1学期はまず希望者がプレゼンし、そのテーマに賛同した者でグループを決定します。今年度は4～6人単位で6グループに分かれました。その後企画書を提出して赤松先生、市野先生とのグループ面談を経てテストピースの制作へと進んでいきます。



灯油窯を使用して還元焼成に挑戦するグループ、陶板でモザイク画制作、神戸の街を希望の光で表現するなど、各グループがアイデアを出し合って日々「土」と格闘しています。

テストピースの結果を受けて、夏休み、2学期と試行錯誤を繰り返しながら3学期の発表会に向けて完成を目指します。私たちのグループはまだテストピースの段階で既に当初の予想に反する状況となり甘さを痛感しましたが、両先生やサポーター、加藤さんのアドバイスを参考に全員で議論しながらイメージ通りの作品を完成するべく制作に励んでいます。

グループ学習のメリットは、失敗をしてもみんなで話し合い一つの作品を完成させるという統一目標があるので1年間の制作過程でより深い「絆」が生まれることだと思います。

音楽文化専攻

吉田 純子・畑中 由美

私たち音楽文化コース31期生は、2年生の3学期に和太鼓とパーカッションのどちらのグループに入るか、一人ひとりが悩みながら選びました。現在は和太鼓17人、パーカッション13人に分かれ、それぞれが卒業演奏会に向けて練習に励んでいます。

和太鼓グループは、メトロノームに合わせて腕を伸ばし、全員の太鼓の音をそろえることを目標に、基礎打ちを繰り返しています。



パーカッショングループは、マリンバの基礎練習を、速度を変えながら行い、みんなの気持ちが一になった時の演奏を目指しています。1曲目の楽譜が届き、担当楽器も決まり、リズムと楽譜に格闘している毎日です。

来年3月の卒業演奏会では、1年間の集大成として心を込めて演奏します。皆さまに楽しんでいただけるよう、全員で力を合わせて頑張ります。

園芸専攻

宮脇 健一・塚原 寛仁

グループ学習については、班ごとにテーマを決め取組むことに決まり、2月頃から各班で取組む野菜と研究内容の検討に入りました。研究内容は、肥料や堆肥の差や植え付け方法の違いなど、いろいろと差をつけて成果を測定します。

各班とも人数が少ないので大変ですが、「みんなで頑張ろう」のかけ声のもと、次の野菜に取り組むことになりました。

- 1班：じゃがいも
- 2班：じゃがいも・大玉トマト
- 3班：サツマイモ・トウモロコシ

2月中旬頃から畝づくりに取り組み、じゃがいもは3月上旬に植え付けました。その他の野菜も順次植え付けをし、さらに水やり、芽かき、追肥、草取りなどいろいろな作業をしてきました。



特に草取りは時節柄作業的には大変でしたが、各班手を抜かず実施してきた結果、作物は順調に成長しています。

6月19日(金)には、グループ学習の取り組み状況の中間発表がありました。各班しっかり取り組んでいました。達成に向けて後半もしっかり取り組んでいきます。

食文化専攻

齊藤 健司・飯田 将人

食文化31期の3つのグループ学習の状況について紹介します。

“スチーム31（前部リーダー）”は、近年注目されているせいろ蒸し料理、あるいは蒸し料理を活用し、シニアの食生活の問題点を改善する簡単に作れて栄養バランスにも優れたレシピを考案するため、楽しみながら頑張っています。



“神戸餃子研究会（楠瀬リーダー）”は、神戸の食文化を反映した「味噌だれ餃子」について、その歴史や郷土料理を生んだ地域の背景、各店舗の食べ歩きとレシピの調査、更に自ら調理したさまざまな餃子を食べて楽しんでいます。

“おだしの会（黒木リーダー）”は、食が多様化する中で、日本食の基本である出汁について研究し、出汁を活かし、塩分濃度を押さえた健康的なレシピを検討しています。出汁を使った和食以外の料理にもトライし、若い世代へ出汁文化を伝えたいと奮闘中です。

ご存知ですか？

どなたが生けてくださっているか、ご存知ですか？

初夏の訪れを告げる半夏生（はんげしょう）が、女子洗面所に生けてありました。

いつも、野に咲いているような派手ではない花がとてもセンス良く、洗面所と自販機前に生けてあります。

茶道部の方が余った茶花を2階には生けてくださることもあるようです。でも1階はどなたでしょうか？

茶道部の方、そしてどなたかわかりませんが、いつもありがとうございます。



～しあわせの村で働く人々～



しあわせの村のお掃除をしている株式会社いくせいの皆さん

この広いしあわせの村の道路で草引きやお掃除をしている十数人の制服を着た方々の姿を目にします。この方々は株式会社いくせいの社員だそうです。お仕事の現場や株式会社いくせいのしあわせの村事業所を訪ねて、具体的な仕事のこと、働く方々の思い、そして現在の課題などをインタビューしました。

知的障害者の就労の場確保に向けて始まった株式会社いくせい そして今、親亡き後の共生社会を目指して・・・

株式会社いくせいの成り立ちと支える親の会

1957年、知的障害のある人の教育の保障を目的として、一般社団法人神戸市手をつなぐ育成会（知的障害者の親の会）がスタートしました。法制度や障害福祉サービスなどをつくるためのさまざまな活動を展開する中で、知的障害者の就労の場確保に向けて、1987年に株式会社いくせいを立ち上げ、今年で39年になります。そして今、親亡き後も知的障害者が住み慣れた地域で安全に暮らしていけるために、障害のある人もない人も誰もが排除されることのない「共生社会」の実現を目指して活動を続けています。

福祉就労社員と支援する社員と

さる4月28日、動物共生センター周辺で、道路に積もって



いる落葉を取り除く作業中の方々のところへ、そして7月13日、暑くなってきたころ、事業所にお邪魔し、朝会とその後のゴミ箱の缶やペットボトルなどの回収作業の見学に行きました。

知的障害のある社員(福祉就労社員)の方々が、数人ずつグループを組んで作業をしますが、そのグループを支援社員が支えています。しあわせの村の掃除や草取り、落ち葉の掃除、ゴミ箱からのゴミの分別回収、トイレの掃除などをしますが、本館回りだけではなくしあわせの村全域ですからかなりの広さになります。

暑くても仕事ですから

背の高い福祉就労社員Aさんにお話を伺いました。Aさんはお母さんの勧めで、株式会社いくせいで働くことになってもう20年経つそうです。

「夏は暑いから大変ではないですか？」とお聞きすると、「暑いけどそこは仕事ですから、やらないといけません。それに僕はこのグループのリーダーなので、自分のことばかり言うてはいけません」とまじめな責任感の強さが感じられるお答えでした。

右下の写真はビニールに入ったごみの中からプラゴミを分別する様子です。こういう作業もありますが、全体的にしあわせの村はとてもマナーのいいところだそうです。



仕事していると楽しいし、趣味もできます

次に落ち葉を一生懸命集めている女性のベテラン福祉就労社員Bさんにもお話を聞きました。

Bさんは「落ち葉の掃除のほかにも、空き缶の回収をしています。飲み残しで絨毯や床を汚さないように気を付けながらやっています」と、とても丁寧なお仕事ぶりであることがわかりました。また、仕事していると同僚との付き合いが楽しいのはもちろんですが、家でも掃除をするようになり、また普段仕事がない時もゴミが落ちていたらつつい拾ってしまうそうです。

働いていて一番うれしいこと、それは「お

給料」だそうです。実はBさんにはとても素敵な趣味があります。「今大衆演劇にはまっています、プロマイドやグッズを買っています。若ちゃんが好きなんです」と、嬉しそうにお話されました。ベテランらしいプロフェッショナルの顔と、推しの話のうれしそうな笑顔の落差がかわいい方でした。



そのほか、24歳の若い社員さんは八極拳という趣味をお持ちで、なかなか歯切れのいい演技を見せてくださいました。そのほか天童よしみが好き、とか太鼓を習っていて神戸まつりにも出たなど、皆さんそれぞれにいろいろな趣味を楽しんでおられます。



シルバーカレッジとの接点は？

シルバーカレッジの農園のすぐ近くに男性の詰め所があります。その農園の近くでシルバーカレッジの人とお話したことがあるかどうか聞いてみました。すると、フェンスができる前はしゃべったこともあったとのことでした。また、シルバーカレッジの落ち葉を回収しに行ったり、シルバーカレッジの自動販売機で飲み物を買うこともあったりもするとのこと、身近なところで私たちとの接点がいっぱいありました。

支える支援社員

事業所で支援社員の井上君江さんに、詳しいお話を聞かせていただきました。事業所は、シルバーカレッジに向かう坂道の下にありました。ここで毎朝9時前にみんなでラジオ体操をしてから作業に出発します。

井上さんは福祉就労社員を支援する支援社員で全体の業務責任者をされています。このお仕事に就いて15年目だそうです。当時の社長に熱心に勧められたのがきっかけですが、それまでは、障害のある方とは話したこともなかったそうです。当時を振り返りながら次のように語られました。



「仕事を始めたときには一度に40人もの人たちのお世話をするのは大変でした。喧嘩もするし、みんながどつと話しかけてくるのでへとへとでした。でも一度この仕事から離れた時、彼らのことが

妙に気になる自分に気がつきました。3か月ほどしてまたいけいに帰ったら、みんながわーっと寄ってきてくれました。それで、やっぱり自分がいるところはここかなと思いました」

この作業で心配なことは・・・この暑さ



井上さんが今一番問題だと思っているのは夏の暑さです。気温もあがり、暑い時期が長くなっています。

「冬の寒さは何とかありますが、夏の暑さはどうしてもありません。昼休みには詰め

所でみんなうつぶせになって休んでいます。しゃべる元気もないほど疲れています。しあわせの村の方々も陰のあるところに掃除の場所を変えるなど配慮してくださいますが、なかなか大変です。陰のないところではタープで陰を作るなど工夫はしていますが追いつきません」と大変心配しておられました。

一番の心配・・・親亡き後の問題

まだまだ個人の問題とされていること

楽しい皆さんのお仕事ですが、支援員として一番心配なこと、それは親亡き後の問題だそうです。

長寿社会の今、定年前に次の職場の準備をしたり、定年退職した後に違う職場に行ったりする方もいます。株式会社いっせいは会社として継続的に雇用を維持し、新たな働き手を受け入れるため、60歳の定年制度があります。定年後の進路については本人や家族と相談しながら準備を進めますが、

そのためにはどうしても家族の援助が必要になります。しかし、60歳というと、すでに親がなくなっている方もいます。ご兄弟がいても、ご兄弟にも生活があります。親亡き後、親の代わりに彼らを支える人がいないという問題があるそうです。

退職される方のなかでも、親亡き後で他の職場を見つけることができずに、家にいることしかできなくなる方もいるとのことでした。グループホームに入っている人もいますがまだまだ数も少なく、入所するためには、親御さんやご家族のご努力が必要だそうです。

「退職された方とはたまに会っていますが、働く場を見つけれずに家にいる方はやはり元気がなくなっています。社員である自分が家庭の中まで入っていかかわるということができないのが歯がゆいです」

長年にわたり、多くの福祉就労社員の方々とのつながりのなかで、笑顔と優しい眼差しを向けながら、退職後の生活がまだまだ個人に任せられているという問題に心を砕く業務責任者のお顔が強く印象に残りました。



親の会「手をつなぐ育成会」のHPから

取材を終えて

気になっていた株式会社いっせいの方々とは直接お話しできてよかったです。年齢もさまざまですが、皆さんとても気持ちのいい方々でした。いろんな趣味をお持ちで楽しそうでした。この厳しい暑さの中でのお掃除、ほんとにご苦労様です。

教育の保障を求めて集まった親の会の活動から、就労の場の確保のために株式会社いっせいも生まれ、行政の動きも進み、障害のある方々を取り巻く環境は、大きく改善されてきました。しかし、まだ切実な問題があります。それは必ずやってくる親亡き後の問題でした。身近な株式会社いっせいでもその問題は確かにあるのです。

・親亡き後を解決するのは？

親が亡くなった後でも住み慣れた地域の中で、安心安全に豊かに暮らしていくためには、親と家族だけでは限界があるのは確かです。親の会である手をつなぐ育成会は、親亡き後の問題を解決するためには、障害のある人もない人もともに支えあいながら暮らす共生社会を築くことが大事であると訴えています。それはとても大事だと思いました。

・広がる共生社会への取り組み

しあわせの村では数年前の3年間、知的障害のある成人を対象とした生涯学習の取り組み「ユニバーサルカレッジ」が開かれました。その会場が、このシルバーカレッジだったのです。受講生は私たちと同じ教室で同じ椅子に座り、部活動もしました。社会は少しずつ共生へと歩みを進めています。

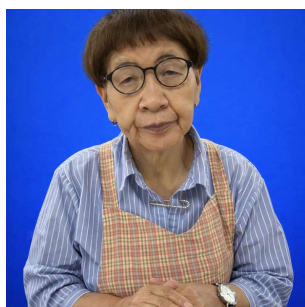
私たちもこの取材をきっかけに、しあわせの村でともに活動するお隣さんである株式会社いっせいの方々、日頃のあいさつやちょっとした立ち話など、身近な交流が生まれれば素敵だなと思いました。

みんなの食堂 なかみち・こみち 居場所づくりの舞台裏

7月3日、兵庫区にある中道地域交流センターを訪ねました。そこで「みんなの食堂 なかみち・こみち」の代表を務める島村千恵子さん（健康福祉21期 / 神戸シルバー大学院15期）は、気さくな笑顔で迎えてくださり、たくさんのお話を聞かせていただきました。なかみち・こみちは、NPO法人社会還元センター グループわ 福祉部会 ひゅうまんグループに所属しています。

島村さんの歩み

島村さんが中学生のころ、障害者施設でボランティア活動を始めたのは同情からだったとのこと。しかし高校生になると「こういう世の中ではいけない」という思いを抱くようになりました。その後、反戦運動などの学生運動にも参加し、「世の中を少しでも良くしたい」という気持ちを持ち続けてこられました。



卒業後は知的障害者施設に長年勤務し、現状に満足することはなく問題意識を抱き、いつも心には戦いがあったそうです。

そして、「人生を振り返って、もう一度学び直してみよう」との思いからKSC健康福祉コースに入学し、授業や仲間との交流を通じて、地域活動への思いがふくらんでいきました。

一年生のころから仲間づくりを始め、授業の中で子どもの貧困の実態を知ったことが、後の「みんなの食堂設立」の原点となりました。

現在も神戸シルバー大学院専科で学びを続けています。

貧困や孤独に光をあてた地域に根差した交流の場づくり

島村さんが食堂の開設場所を選んだのは兵庫区でした。

一人で夕食を食べる子どもや、朝食を抜いてしまう子ども、孤立しがちな若い母親、そして孤食をしている高齢者など、あらゆる世代を受け入れる「みんなの食堂」にしたいという強い思いを持つようになりました。

しかし、立ち上げ当初は苦難の連続でした。行政に動いてもらうために水面下に隠れて見えにくい貧困の実態を訴えましたが、さまざまな壁にぶつかりました。また開設時の資金集めや場所探しにも大きな苦労がありました。

そんな島村さんを支えたのが、KSCで信頼関係を培った仲間たちや地域の住民、そして「グループわ」の存在でした。

多くの人の協力と地道な努力の活動が実を結び、2017年7月7日、「みんなでご飯をたべればおいしいね！」を合言葉に第1回「みんなの食堂 なかみち・こみち」が実施されました。

広がる「食」を通じた多世代交流

9年前にはわずか10人程度だったスタッフは、今や50人へと大きく成長しました。

その間に、調理、広報、資金集めなど、それぞれの手腕を発揮できるスタッフが育ち、支援は兵庫区から始まり、神戸

市、さらに政府から米の提供を受けられるまでに広がっていきましました。

また加工済みの食品を提供するのではなく、有機野菜を使い、昔ながらのお惣菜を調理するなど、食へのこだわりを若いおかあさんたちへ伝えることも活動の一環です。

中道地域交流センターでの活動

<みんなの食堂 なかみち・こみち>

毎月第1・第3土曜日 昼食の提供

前半に紙芝居やマジック、クイズ、交通安全教室などのアトラクションがあり、後半は食事を楽しまします。

クリスマスやひな祭りなどの行事には特別メニューも登場します。（参加費は、子どもは無料、大人は300円）



<ひゅうまんグループ>

① 毎月第1金曜日の朝 ふれあい喫茶

フルート、チェロ、電子ピアノなどの演奏によるミニコンサートを開催することもあります。

（モーニングセット300円、コーヒー、紅茶100円）

② 第1、第3土曜日の朝 朝食の提供

児童館に来る学童を対象に、おにぎりやみそ汁、卵焼きなどを提供しています。

朝ご飯を食べていなかった子どもたちが「ご飯がおいしい」と笑顔を見せてくれるそうです。

KSCの絆と人脈が支える「グループわ」との連携

「なかみち・こみち」の成長において、KSCとの関わりは切り離せません。「グループわ」の福祉部会の一つとして運営をスタートしたことで、設立時の行政機関への手続きが円滑になり、スタッフは活動そのものに専念することができました。

また、スタッフのほとんどがシルバーカレッジの卒業生で構成され、いろいろな面で連携が取れるようになっています。

たとえば「グループわ」の「有機農法を考える会」や「有機野菜をつくる会」からの無農薬野菜の提供、特技を活かした卒業生の英語教育やアトラクションなど、食を通じた居場所作りへと業容拡大することができています。それはKSCボランティアサークルにとっても、貴重な発表の場になっています。

新たな人生に一步を踏み出して

島村さんから現役のKSC在学生へ向けて、次のようなメッセージをいただきました。

「シルバーカレッジという大切な場所に、せっかく身を置いているのですから、ただ趣味を楽しむだけでなく、きちんと周りを見渡して自分がどの位置にいるのかを考え、『自分は何かをしたい』という思いを常に持ってほしいです。そして、同じ思いを持った仲間を作ってください。学んだことを社会に還元できる人を目指し、ぜひ人生をもう一步、踏み出してください」



取材を終えて

KSC在学中の一時的なボランティア活動に終わらず、社会への還元を「継続」させていくこと。これこそが島村さんから学ぶべき最大のメッセージだと感じました。

そして、物事に出会い、知り、学び、怒りを抱き、行動するという姿勢を貫いてこられた島村さんの生き方や、それを支える仲間の姿は、私たちに深い感銘を与えてくれました。

7月7日、なかみち・こみちは9周年を迎えました。



なかみち・こみちの URL :

<https://nakamichi.fc2.net/blog-entry-85.html>

文芸サロン

《俳句クラブ》

姉二十歳妹十六花水木

紫陽花の色まだ淡き通園路

農道の混み合っている田植えかな

目覚めては急いで畑へ梅雨晴間

読み聞かす絵本机上に金魚鉢

ご来光偉大な山に合掌す

うぶすなの社に雨の四葩かな

見て見ると幼子の手に蚩かな

《川柳くらぶ》

還暦に生まれ変わると誓ったが

うたたねの足を日なたに差し出して

お茶会で亡き父に似る兄の声

年老いて宝は健康日々用心

茶を飲んで消してみたいよ加齢臭

深刻な話の前に茶をすすめ

父の日の絵手紙今も宝物

麦茶だと言いつける夫の手にビール

《応募作品》

「望み」とは希・失・絶の順にくる

「兵庫県？」住まいを聞かれ「神戸市です！」

忽然とマナーモードのスマホ消え

年齢は取って重ねて棚の上

奥山 繁男

中井 芳樹

大高 松男

石井 牧子

佐野 貴代美

伊集院 千賀子

山本 成人

荒木 育夫

濱田 一步

楠元 ゲルダ

右立 利盛

北川 都

戸島 峰光

西 由紀

中西 康晴

千足 千

安田 維之

安田 維之

池内 真知子

池内 真知子

文芸サロンへの投稿や爽風への
ご意見・ご感想はこちらから



グループわ だより

7月7日に開催しました



令和8年度学習支援研修会

学習室3・4で学習支援研修会を開催し、KSC学生の15人を含む55人が参加しました。

神戸市教育委員会の大塚真由子先生による講話は、「配慮が必要な子供達への支援について～どんなふうにつき合ったらいいか～」というテーマで、特別支援協力ボランティアの役割と具体的な内容、配慮が必要な子どもたちへの支援の仕方などを、分かりやすく話していただきました。

活動をしたい参加者が多くいて、多くの相談や質問がありました。



神戸常盤大学看護学科授業に協力

同大学で看護科2回生の92人を対象にした「むかし遊び体験」の授業に協力しました。高齢者が育った時代の遊びを通じて、暮らしや文化を知り、高齢者看護でのコミュニケーションのきっかけにすることを目的とした授業です。

むかしあそび研究会の皆さんが指導者になって、こま回し、ケン玉、紙飛行機、折り紙、あやとり、ブンブンごま、お手玉の7種類の遊び方を説明し、体験してもらいました。

大学の先生から「学生たちの生き生きした姿をみた」と感想をいただきました。



図書室だより

2026年度現在、新刊 21 冊入っています

図書室には皆さんの要望によって新しい本が続々と整備されています。2026年度の図書委員会が仕事を始めてから1学期で21冊にもなります。

例えば「終活大全」「もしかして認知症？」「棺桶まで歩こう」などのタイトルから想像される私たちの年代に切実な問題の一群があります。そして「人生を救う 名もなき料理」「創造性アート授業の実践」など、各コースにつながっている本、「ブティック」「熟柿」「C線上のアリア」など新しい文芸書の話の本です。また「アロハに生きるハワイアンへの教え」「暮らしのなかの瞑想入門」などライフスタイルや宗教に関わる本が結構あるのも特徴です。

これら新着本は、図書室に入ってすぐ左手にある「新着図

書コーナー」に並んでおり、本があれば借りることができますが、借り出されている場合は返却期限日を示す紙がぶら下がっています。

どんな本が入ったかの情報は、図書室のほか、事務局前の階段の登り口にある図書室からのお知らせコーナーに、タイトルと簡単な内容を添えて掲示してありますので確認してください。



(図書委員会)



編集後記

先輩やしあわせの村を支える人々へ思いを馳せて

7月28日発生した令和8年熊本地震、被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧・復興をお祈りいたします。

9月号では、ボランティア活動報告会を特集しました。阪神淡路大震災（1995年）を契機として始まったボランティア活動報告会も29回目になり、活動紹介やパフォーマンス、そして作品を披露しています。ボランティアはシルバーカレッジの基本理念です。

次に、今年も手を挙げて集まった総務委員会や駐車場委員会、その他各委員会の意気込みや思いをはじめ、学園祭を盛り上げるサークル・クラスの出店・展示一覧表やス

テージプログラムを掲載して紹介しています。

また、シルバーカレッジの卒業生が立ち上げ現在も兵庫区で活動している、みんなの食堂 なかみちこみち、しあわせの村内で活動している株式会社いくせいの取材記事を掲載しています。先輩に学び、また、ともにしあわせの村で活動する人々へ思いを馳せたいと思います。

情報誌爽風は、シルバーカレッジ内の活動やしあわせの村内の状況などを紹介しています。情報誌に掲載してほしい記事などがありましたら、情報誌編集委員までご相談ください。

(情報誌編集委員会)